

今回のテーマは しごと（農業）

人口減少対策には働く場の確保が重要です。本市の特徴的な産業の一つとして、米・畑作・畜産などの農業が挙げられます。

本市の基幹的農業従事者（ふだん主に農業に従事している者）は、60歳以上が約7割、60歳未満が約3割とアンバランスな状況にあります。持続可能な農業を実現していくためには、若年層の新規就農を促進していくことが必要です。

本市の新規就農者は近年増加していますが、世代間バランスの取れた構造とするためには、さらなる新規就農者の確保が必要です。

新規就農の促進に有効な 施策のアイデアを募集します

新規就農の促進に関する取り組みを市民の皆さまから募集します。頂いた提案は、まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に活用します。

提出方法（いずれかの方法で）

郵便・FAX・電子メール・持参

提出先 政策財政課 FAX④9616

電子メール

seisakuzaisei@city.towada.lg.jp

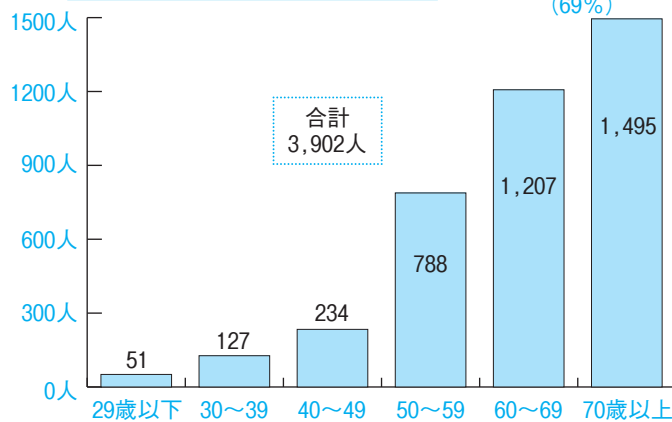
提出期限 平成27年10月30日(金)

様式 自由（住所・氏名・電話番号を記入してください）

※提出いただいた提案（個人情報を除く）は、十和田市総合戦略会議などで公表することがあります

※取り組み提案の内容について確認するために、問い合わせをする場合があります

本市の基幹的農業従事者数
（平成22年）



60歳以上 ← 2,702人 → (69%)

出典：2010年世界農林業センサス

新規就農者を 紹介します



ひがし ひろき
東 寛貴さん

親の年齢を考え帰郷し、就農しました。会社勤めに比べると、農業は時間が自由になることと、やり方次第で成果を上げられることが魅力です。会社での店舗経営の経験を生かして、自分なりの農業経営を実現したい。農業は人の命にも通じる大切な産業。信頼される生産者になりたいと思っています。

PROFILE

沢田字三日市在住。首都圏で会社勤務の後、平成25年に、父母の農業基盤を継承して新規就農した。主力はにんにくと水稲。今話題の6次産業化にも注目しながら農業経営に取り組む若手農業者のひとり。

十和田市の将来を考える市民ワークショップの参加者を募集します

政策財政課政策企画係 ☎56710

「十和田市の将来」について、自由に意見交換し、アイデアを出すことを目的としたワークショップを開催します。ワークショップで取りまとめた提案などは、第2次十和田市総合計画および地方版総合戦略の策定に活用します。

十和田市の将来について一緒に考えてみませんか？

テーマ 雇用創出、移住・定住促進、少子化対策、地域づくり

とき 平成27年11月14日(土) 午後2時～4時30分

ところ 市民交流プラザ「タワーレ」

対象 18歳以上の市内在住者
(知識・経験は問いません)

募集人員 20人程度
(報酬などはありません)



申し込み方法

- (1) 申込書は、市ホームページからダウンロード、または担当課で配布しています。郵送配布も可能です。
- (2) 申込書に必要事項を記入のうえ、郵送、持参、FAX(④9616)またはメール(seisakuzaisei@city.towada.lg.jp)で申し込みしてください。

申込期限 平成27年10月23日(金)

結果通知 申込者多数の場合は、性別・年齢などを考慮のうえ選考します。選考結果は、応募者本人に通知します。